

早稲田大学 Y M C A 災害援助ボランティア隊 活動報告（速報）

2011年3月26日

早大 Y M C A 主事 石戸充

監事 本間勝、理事 加納貞彦

早稲田大学 YMCA 災害援助ボランティア隊の派遣は、「災害時ホルモン補給援助チーム」（代表岡本新悟医師、岡本内科こどもクリニック院長、奈良県立医科大学客員教授）の一員として、汎下垂体機能低下症（中枢性尿崩症、甲状腺機能低下症など）への稀少薬の運搬を行いました。これらの薬は患者の生命の維持に必須であり、かつ稀な病気であるため被災地では入手困難となっております。

以下に3月20日時点でのボランティア隊の活動について、関係したいろいろな方からの情報をもとに以下のように報告（速報）します。

- 3月14日 岡本先生（岡本内科こどもクリニック院長、奈良県立医科大学客員教授）が出した「被災された方々の援助について：下垂体機能低下症並びに尿崩症をお持ちの方への援助についての緊急連絡」を読んだ大木里美さん（中枢性尿崩症の会）がメーリングリストのメールによりその情報を伝えました。それを読んだ加納が、岡本先生が用意した薬品の「補給ルート」を探していることを知りました。
- なお、岡本先生の「被災された方々の援助について：下垂体機能低下症並びに尿崩症をお持ちの方への援助についての緊急連絡」のメールは、以下の諸団体を経由されて加納まで届きました。（ ）内は、今回の情報の転送にかかわった方々のお名前です。
 - 「NPO法人エスビューロー」（廣田奈美さん、安井美喜さん）

- 「ランゲルハンス細胞組織球症（LCH)患者会」（天野美知子さん）
- 「中枢性尿崩症（CDI）の会」（大木里美さん）
- 「地域の医療と健康を考える会（GHWの会）」（大木里美さん、加納貞彦）
- 災害時のボランティア活動を伝統的に行っている早大Y M C Aが（これまで阪神淡路大地震、中越沖地震、能登地震などの国内、およびバングラデシュ、ミャンマー、インドネシア、フィリピンなどの海外での災害援助ボランティア活動の経験あり）、今回の東北関東大震災でも何かできることがないか探していました。
- そこで早大Y M C Aの理事である加納が、岡本先生の要請に応える形でのボランティア活動として、医薬品の搬送を行うことを提案し、以下を条件に関係者一同が了承しました。

条件： 所轄の警察署に行って、「緊急車両」の指定を受けること。被災地に迷惑をかけずに自給自足とすること。このため、テント、寝袋、食料、簡易トイレ、携帯コンロ（燃料も）、十分なガソリン、などを携行すること。また隊員の安全を第一とすること。具体的には、問題となっている福島原発の近辺を通る東北自動車道を使わないこと、なるべくボランティア隊員に野宿させずに途中経由地（新潟県村上市）および目的地仙台で彼らに宿泊を提供して下さる方を探すこと、さらに派遣メンバーにボランティア保険（社会福祉協議会が主宰）に加入させること。

- このことを岡本先生に同日中に伝え、岡本先生が奈良で必要な医薬品を揃えてくれました。

・ 【携行医薬品】

中枢性尿崩症用	デスモプレシン	20本
下垂体機能低下症および副腎不全用	コートリル	500錠
甲状腺機能低下症	チラーチン	1000錠

- 3月15日、岡本奈香子さん（岡本先生のお嬢様）がこれらの医薬品を新幹線で京都駅から東京駅まで運んで下さり、東京駅で早大YMCAのメンバー（吉丸響、加納貞彦）が受け取りました。
- 3月16日朝、ワゴン車一台に5名（派遣チーム、および派遣チームの友人ひとり（東北大学学生））が乗って出発しました。仙台へのルートとしては、新潟県村上市経由（地元のボランティア（菊谷浩さん）のお宅で一泊）をしました。途中、東京で十分用意できなかった食料、ガソリンなどを車に満載しました。

注：早大YMCAボランティア隊メンバー

（派遣メンバー）塩澤壮吾（早大YMCA幹事長、早大創造理工学部2年）、伊藤英経（ひでのり）（早大文化構想部3年）、吉丸響（早大文学部1年）、石戸充（早大YMCA主事）

（在京支援メンバー）鈴木壮太（早大商学部1年）、小幡昌彦（早大文化構想学部4年）、西野健悟（早大商学部3年）、本間勝（早大YMCA監事）、加納貞彦（早大YMCA理事）

- 3月17日、吹雪の山形自動車道を通して、仙台に入り、あらかじめ岡本先生が連絡して下さった東北大学病院内内分泌内科の伊藤貞嘉教授に医薬品を届けることができました。
- 3月17日夜、ボランティア隊は仙台在住のボランティアのお宅（安達文幸東北大学教授）に宿泊させて頂きました。2泊お世話になりました。
- 東北大学病院では、内分泌の相談窓口を開設しました（大木里美さん（中枢性尿崩症の会）からの情報）。
- また最初に岡本先生のところに救援の要望があった陸前高田市の患者SHさんのところには、「東北大学教授と連絡が取れて、行政を通して、薬を届けていただけるとのこと」ですとの連絡が入りました。

（この患者SHさんのことを岡本先生に伝えてくれた、いとこの佐藤直子医師からのメール）

- 3月18日午前中は、早大Y M C Aボランティア隊は、東北大学病院でボランティア活動をしました。
活動内容は、2組に分かれ、二人は床に散乱したカルテ（紙）やフィルム（X線、CTなど）の整理（時間順序で並べるなど）をしました。他の二人は医事課で安否確認情報をPCに投入するデータベース化に従事しました。
- 3月18日午後、仙台市立七郷中学校、および七郷小学校に設置された避難所に行き、仙台への途上で調達した食料（カップラーメン、いわしの缶詰、かりん糖など）、ペットボトルの水・お茶、携帯コンロの燃料（ボンベ）、マスク、暖房用衣料（村上市で菊谷さんが用意して下さったもの）などの物資をそれぞれの避難所に届けました。また仙台Y M C Aを訪問し、救援活動のお手伝いを短時間ですが、しました。
- 3月17日、岡本先生がNHKに声をかけて下さり、NHKから加納のところに電話があり詳細情報を伝えました。（伊藤貞嘉先生の連絡先も伝えました）NHKのテレビ放送でこれらの薬を必要とする避難所などにいる方にも情報が届くように放送してくれるそうです。（本間がこのNHKのテレビ放送を3月18日午後、確認しました）
- 3月18日、東北大学病院内内分泌内科の伊藤貞嘉先生から以下のメールが届きました。
「皆様：東北大学の伊藤です。今回のボランティア活動ありがとうございます。薬剤は無事東北大学に到着いたしました。陸前高田方面の状況は大変厳しい状況です。いただいた情報と薬剤の件に関しては、岩手県の災害対策本部に連絡をして、その救護医療班に連絡をとり、適切な処置をお願いしました。薬剤は、宮城、岩手の避難民等で必要な場合は宮城県、または、岩手県の災害対策本部と協力して提供します。伊藤」
・ということで、岡本先生が用意し、ボランティア隊が届けた薬は、東北大学病院の内分泌科の伊藤先生および関係各位のおかげで必要とする方々への配布が行えることになりそうです。

- さらに3月18日（14：56 受信）で伊藤先生からの岡本先生および加納宛メールが届きました。

「岩手県から以下のような連絡がありました。

なお薬剤は当院で保管し、宮城県、岩手県などで必要のあるところに届ける手はずが整っています。

佐藤先生にもお伝えください。

伊藤貞嘉

岩手県健康国保課 薬務担当のTです。

ご連絡ありがとうございました。地元の保健所を通じて、情報を頂いた患者さん（SHさん）の状況についてご報告します。

本日、現地保険所に連絡を取り、保健師の訪問を依頼しました。

昼過ぎに保健所から連絡があり、家屋はあり、ご本人は被害を逃れ健在、医薬品については、2月24日に県立大船渡病院から90日分の交付を受けており5月末までの分があるということでした。

これだけあれば、最寄りのかかりつけ医にかかれるようになるまでの間は問題ないと思われそうですのでとりあえずの対応は終了としたいと思います。」

- ボランティア隊は、3泊4日の予定で準備をしていましたので、3月19日朝7時、仙台を出発し帰途につきました。途中朝7：30に、色々お世話になった東北大学病院の医師森建文先生からの依頼で東北大学病院の職員の方の車に、来る途中の新潟県村上市で購入したガソリン（20リットル）を給油しました。これにより患者様の薬や医師の搬送と食料が調達できると喜んで下さいました。なお森先生からのメールによれば、「この時点で入院患者様には病院から食事が出ていたものの病院に寝泊りしていた職員の食事は自分達で調達しなければなりませんでした。」ということだったそうです。

- 3月19日18:10、ボランティア隊は再び山形・新潟経由で（途中、村上市で給油するとともに、一泊させて頂いた菊谷浩さんと昼食を一緒に食べつつ、報告をして）東京新宿の早稲田YMCA会館（信愛学舎）に無事に帰着しました。
- 今回届けた薬のひとつチラーヂンについて、「国内のチラーヂンを一手に作っている製薬会社あすか製薬が震災を受け製造中止になり入手困難との情報が入りました。あすか製薬に仲間が問い合わせしました。以下は製薬会社「あすか製薬」の返答です。

「現在他社と生産してもらえないか協議しています。また厚労省とも緊急輸入について協議しています。生産、復旧について目途はたっていませんが、目途がたち次第HPでお知らせします。」（複数の患者会、医療関係者からのメールを読んだ大木里美さんから）

注) その後3月25日の朝日新聞朝刊によれば「工場の被害が予想より少なかったために、再開のめどが立ち、4月中旬にも販売を再開する見通しになった」とのことです。（本間勝さんからのFax情報）

- 早大YMCAとしては、第2陣のボランティア隊を派遣する用意はあります。
- しかし、私どもの報告を読んだ竹沢弘子さん（「地域の健康と医療を考える会（GHWの会）」幹事、埼玉県本庄市在住）が、知り合いの地元選出の小泉龍司衆議院議員（無所属）を通じて、（1）「有事の際の要望・依頼書」を厚労省へ届ける窓口として「厚労省医政局経済課福本浩樹課長」に開設してもらい、（2）日本赤十字社を通して医薬品を届けるルートを開設してもらった、との連絡がありました。
- 従って、医薬品の搬送については以降はプロの方々へ引き継ぎたいと思います。
- 早大YMCAとしては、今後どのようなボランティア活動ができるか現在検討中です。
- 終わりに、この活動にご協力して下さった本報告に名前が載っているの方々、またお名前は載っていませんが直接的または間接的にご協力頂いた多数の方々に心からの謝意を表します。

以上

お願い： 早大Y M C Aは、今後もボランティア隊の第 2 陣、第 3 陣を被災地に派遣する予定です。資金
のご協力をお願いいたします。

(送金先)

郵便振替口座：00140-3-76247 口座名義：早稲田大学基督教青年会

東京三菱 UFJ 銀行高田馬場支店（普）1533905 （財）早稲田大学基督教青年会